

関釜支援ニュース

第 1 号

「支援の会スタート！」

松岡 澄子

四月十七日、準備会が正式に「支援する会」としてスタートしました。海を渡ってきた原告たち、弁護団、運動を連帯する仲間に加えて、朴S.O.さんの恩師、杉山トミさんが「結成集会」に別の色彩を加えてくれました。論理と共感と奮起を与えてくれた良い集会で、幕開け出来たことを、うれしくおもいます。

四月二十日、原告達は去年十二月に来日した時の、緊張した堅い表情ではなく、柔らかさのある、打ち解けた表情で釜山に帰られました。「裁判が東京になったら、私達は行けない」との悲痛な言葉を残して。

支援する会の最初の活動が、国の東京地裁への移送申請に抗して、下関の裁判所で行なわれる事を要望する、署名の取り組みとなり、全国に千通近い署名依頼を送りました。このことは、私達の「関釜裁判を支援する会」が、戦後補償を求める裁判闘争の戦列に加わり運動の共有化を求めて、歩み出したことでもあります。この「関釜裁判ニュース」が、朝鮮人の側にたった運動を展開していくための、精神的支柱になり得るならば、幸せです。ささやかな機関紙と情報交換・意志交換・学習の物として、育てて下さる様お願いします。

飯塚の八木山で、近所に帰りながら、署名を集めてくれている友人の姿に感謝するとともに、「がんばろう」と勇気づけられています。全国から送られてくる署名や、励ましの便りも、有り難いかぎりです。有Pを寄せて下さった方々にも、厚くお礼を申し上げます。今後とも、物心両面で支援して下さいます様おねがいします。

「国の東京地裁への移送申請し立てに強い憤り」

花房 恵美子

昨年十二月二十五日、釜山とその近郊在住のハルモニが、日本政府に公式謝罪と補償を求めて、山口地裁下関支部に、提訴しました。七年も「従軍慰安婦」生活を強いられ、逃亡を試みて果たせず、頭に深い傷をおわされた河順女さん。台湾で五年余「従軍慰安婦」

をさせられ、今は耳が遠くなり、足も弱ってしまった朴頭理さん。小学校を出たばかりの十三才で、富山の、軍需工場不二越に連れていかれ無報酬で空腹のうえ、体が小さいため、労働があまりにきつく、機械にまきこまれ指に大怪我をした朴S.O.さん。

十七才で、同じく不二越に連れていかれた柳Tさん。以上四人が原告です。

第一回口頭弁論が、下関で四月十九日に決まり、彼女達は体調を整え、日本行きを楽しみにしていました。私達は、福岡で四月十七日、彼女達全員を迎えて、支援する会の結集集會を、計画しました。ところが四月六日突然、被告の日本国が東京地裁への移送を、申し立ててきたのです。国家賠償を求める裁判を、強制連行の窓口であり、釜山に近い下関でやれることを、老いて体の不自由な原告達が、何よりも喜んでい

ました。又、強制連行の傷跡がのこる、九州に住む私達にとつて、地元で戦後補償を求める裁判が行なわれる意義は、大きいと考えます。

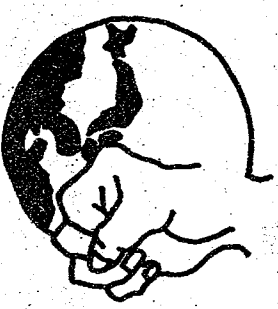
私達は、強い憤りと危機感をもって、予定通り四月十七日に結集集会をおこないました。弁護団（昨夏より、聞き取り調査をしてきた、山本晴太・本博盛・山崎吉男各弁護士）からの経過報告、この裁判のもっている意味についての説明の後、釜山で支援する金文淑さんによる、原告団の紹介と近況報告（河順女さんは、直前に転倒して、体調を崩し来日できませんでした。）杉山とみ先生のお話（不二越に連行された朴SOさんの国民学校四年生の時の恩師。遠路、富山から駆け付けて下さって、二人は五十年ぶりに、劇的に再会しました）挺身体として、連れていかれた朴SOさんのことを、

戦後ずっと気にかけて、心を痛めてきたこと。皇民化教育に、加担した事の償いを自分に課している事などを切々と訴えられ、会場は深い感動に包まれました。

金順吉裁判・関釜裁判をすすめる会・文さん郵便貯金・トラジの会等、九州の地で頑張っておられる、運動体からの連帯の挨拶の後、法務大臣への抗議文を採択し、下関での裁判を求める、署名運動をしていく事を、確認し結成宣言を行ないました。百人を越す、熱気あふれる集会となりました。

昨年暮、イヤイヤ日本に来た原告ハルモ二達が、今回は笑顔で来日され、特にひたすら顔を隠していた朴頭理さんが、背筋をピンと伸ばし、こんなに背の高い人だったのかと、目をみはる程の、堂々とした風格で登場されたのには、驚き

ました。この裁判が彼女自身の、人間としての尊厳を取り戻す闘いなのだ、身をもって教えてくれました。この一つ一つの感動を、支えとしながら今なお、アジアの女性達を辱めている、私達自身の生きざまを問いつつ、戦後責任を問うこの裁判を自分自身の問題として、共有支援していきたいとおもいます。「文句があるなら、東京に出てこい」と、言わんばかりの国の態度は、原告ハルモ二達を失望させ、この問題の地方への広がりに、打撃を与えるものです。全国の志を同じくする皆様、是非とも移送を阻止する為の、署名運動にご協力お願いします。



「原出口の方々を身近に感じて」

太農 真由美

先日、原告の方々、金さん・朴ヘレナさんとお会いして、お話をすることができ本当に良かったと思えました。みなさんを、身近に感じる事が、出来ました。朴SOさんは、私の祖母に似ています。私が生まれる前に、亡くなっているのに会ったことはないのですが、とてもそっくりなのでびっくりしました。なんだか、自分のおばあちゃんに会えた様で、うれしかったです。心臓が悪いとの事で、結集集会の時にも、具合が悪かったですよね。後で、席に着かれていましたが、お顔の色も、冴えなくなつて辛そうでしたね。柳さん、朴頭理さんもきつそうで、河順女さんにいたっては、起き上がれな

い程、お加減がお悪いとのことで、心配です。十二月の時に、お会いした方々より厳しい生活を、なさっている事を金文淑さんや、朴、レナさんのお話から感じました。みなさん、とてもお優しい方ですね。とても、気を使って下さいました。柳さんとは、色々お話も出来ました。頭理さんとは、言葉を交わせませんでした。感じるものがありました。また、金さんの、とても強く心優しいお人柄の、ファンになりました。集会の夜、別れ際に私の手を握って「また、会いましょう！」と言って下さいました。とてもバワフルで、素敵な方ですね。集会では、全国各地で頑張っている方々のお話を聞き、皆で力を合わせて「恨」をはらしたいと強く思いました。一人一人の力は、小さいかもしれませんが、みんなが頭張れば、きつと乗り越え

ていけるとおもいます。私も、大したことはできないと思いますが、自分に来ることを、一所懸命やりたいと思っています。

今日、要望者の署名を知り合いや、友人・同僚に頼みました。色々な人がいます。でも一人一人に、自分の思っている事や、原告の方々の現状、学校で習わなかった事実を話しました。思っている以上に、みんな知りませんでした。以前の私と同じでした。しかし、話を一所懸命聞いてくれる人も多く、それだけでも有り難かったです。一人でも多くの人に、意識を持ってもらいたいと、思わず熱が入りました。これからも、自分が感じた事、自分の心の中を通った言葉で、周りの人々に語りかけ、理解を求めていきたいと思っています。

「あまりにも重く、 激しい現実にか 何が出来るのか」

伊東 孝子

私の教えている中・韓国
人就学生の前で、第二次世
界大戦中のそれも、南京大
虐殺という言葉が、出たこ
とがありました。

私の考えを言わなくてはと
いう変な義務感と、気負い
を感じながら、一言二言、
話したら「もういいよ。先
生には関係ない。それに自
分達にも関係ないから。」
と言われ、話すのをやめま
したが、その授業が終わっ
た時に、「先生は、(戦争
のことについて)関心があ
る様で、うれしい。日本人
と話してみたかったから。」
と韓国人の学生に言われま
した。この反応に戸惑いの
様な、安心感の様なものを
感じながら、頭に浮かんだ
のは、おばあちゃん達の顔
と、一緒に頑張っている、

支える会の皆さんの事でした。私に何が出来るのか、おばあちゃん達に対して、中国・韓国・その他の国々の人に対して、そして何よりも自分自信に対して、出来る事はあるのかと。

私達の年齢の者にとつて戦争中の事は、遠い遠い昔の事ではありませぬ。自分のおじいさん、おばあさんの時代だと分かっているけれど、関係ないと思いい込んでいます。戦争責任・慰安婦、なんて言葉を知らない人も、少ない人かと思えます。知らない人が悪い訳ではありません。知らないで済むなら、無関心でいられるなら、その方がいいかもしれません。それはあまりにも重く、激しい現実だから。でも知ってしまったら、気づいてしまったら、無関心でいられるものではないと思います。知らない顔をして、耳をふさいでしまうには、大きな、大きな事ですから。



関心のない人が多い、世論の盛り上がりがないと言うのは、今まで接点が無かったという事ではないか、とおもいます。きつかけがあつて、一度気付いてしまつたら、知らない顔はできないでしょうから。

私は、きつかけがなかった人より、ちよつとだけ早くおばあちゃん達に会う事ができました。それも、直接会つて話せるという、顔を見ながら相手のことを確かめる事が、できる距離からのスタートです。もう私は無関心でいる事はできません。というより、おばあちゃん達が来るのを、嬉しく思っています。

今回のおばあちゃん達との出会いは、ほんのスタートにすぎないでしょう。おばあちゃん達の為にも、中国・韓国・その他の若い人達の為にも、日本人の為にもそして、何よりも自身自身の為にも、皆さんと一緒

に、歴史の事実をしつかり見ていきたいと思つています。まだ知らない、気が付いていない人に対して、少しでも早く知つた私に、できる事を探しながら。

そして、次に戦争の話が出た時に、自然に真剣に話す事が出来る自分になる様にこれからの出会いに期待しています。

定例会のお知らせ

・毎月第一火曜、次六月一日 P.M六時三〇分、九州キリスト教会館

内容

*東京地裁へ移送か？第一回口頭弁論に向けての取り組み、その他の問題。色々学習していきたい事は多々あります。是非、ご出席下さい。



河順女ハルモニに 支援を！

四月十七日の「支援する会」の結成集會に元従軍慰安婦、河順女さんが来られませんでした。七十五才の高齢に加え、慰安婦の時頭をメッタ打ちにされた傷がひどく、頭痛を酒でまぎらわしている毎日です。

この冬はとくに、体調が悪く外出の時つまずいて転び額に傷を負つたそうです。甥に、一部屋を提供されて自活していますが、月三万ウォン(約五千元)では、食事もまともにできない状況です。韓国政府からの軍慰安婦への生活支援、生活費・医療費の免除等々が実施されるのも今年の末になりそうです。「このままでは、そう長くないのではないか」と金文淑さんへレナさんも心

ておられました。

韓国政府からの生活支援がなされる迄、「支援する会」の方で月二万円(約十四万ウォン)を送り、食事と医者にかけられる様にしたと思います。

今年になって韓国で名乗り出た元慰安婦の方がすでに、二人も亡くなられました。名誉を回復される事もなく、貧困と孤独の中での死でした。私達が支援する原告の河順女さんを、この様な哀しい状況に追い込む事を、してはならないと考えています。

どうか、河順女さんの為にカンパを、お願いします。また、この「支援する会」の会員となつて下さる方も募集しています。よろしく願ひいたします。

発行 関釜裁判を支援する会

口座 福岡四・四七六七八